

自治体の課題、現状

・人口減少等の地域全体の課題は……。

種目によっては学校単位でチームが組めない

・地域移行の取組の現状は……。

徐々に拡大しているが、事業の内容把握が困難、周知

徹底、兼職兼業頼み

・地域移行を進める上での課題は……。

会費設定、財源確保、指導者不足

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	6校	全生徒数	2,044人
域内の部活動数	79部	実施した地域クラブ数	7クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	11人
主な運営団体	教育委員会 スポーツ振興課		
主な種目	軟式野球、剣道、女子バレーボール、空手、柔道		
平均的な活動回数	4回/月	会員数	124人
参加会費	0円/年	主な活動場所	中学校施設

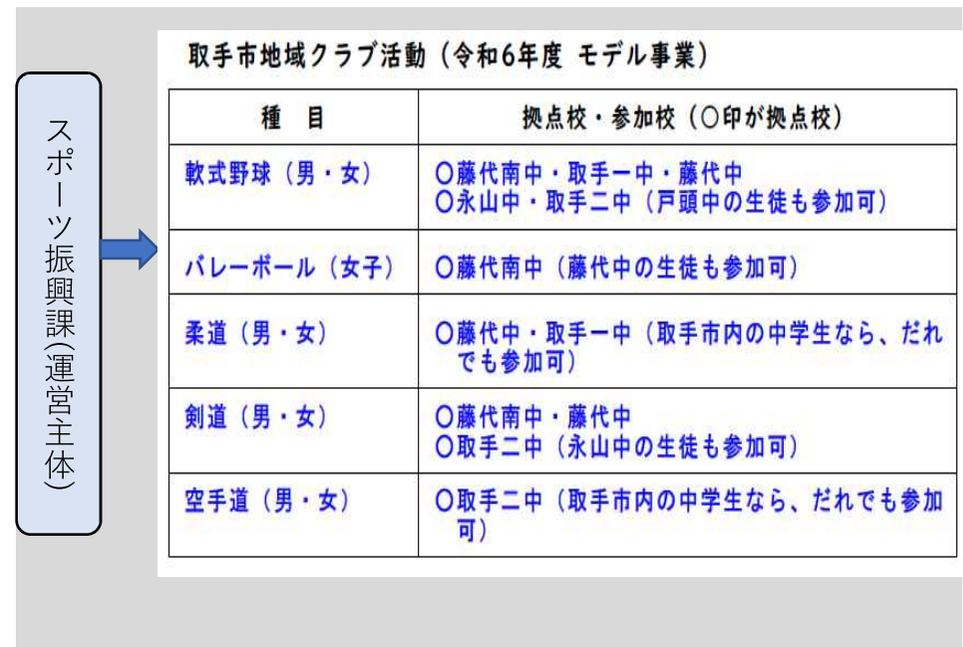
地域移行関連の取組、成果

・実証事業を実施することで、クラブ運営に必要な経費や、人員の体制について見通しを立てることができた。

・実証事業の実施により、生徒、保護者、教員に対し理解が進んできた。

・令和8年度からは、市内6中学校のすべての部活動の休日の活動を地域に移行する予定である。将来を担う子どもたちのためにも、市、学校、生徒、保護者、各種関係団体とも十分に連携し、市をあげて支援体制を整備することで、よりよい地域クラブを作っていく。

運営体制図



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県取手市

自治体名 : 茨城県取手市
担当課名 : 取手教育委員会スポーツ振興課
電話番号 : 0297-82-7200

本報告書は、スポーツ庁の「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一貫として、茨城県が実施した「令和6年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果をとりとめたものです。

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	69.94 km ²
人口	103,581人
公立中学校数	6校
公立中学校生徒数	2,044人
部活動数	79部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	取手市部活動地域移行推進協議会設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

取手市には、市立6中学校に79の部活動があり、1,649名の生徒が日々活動している。その中には、毎年のように関東大会や全国大会に出場する部活動もあり、部活動が地域の伝統・文化として根付いている面もある。部活動の地域移行にあたり、それが**子供たちを主役とした本市にあった事業となるように**、国及び茨城県のガイドラインに従い、各中学校にある部活動の良さを生かしながら地域移行を進めていくことになった。

令和6年度の主な取組は、大きく2つ、**取手市部活動地域移行推進協議会の開催と、地域クラブ活動のモデル事業の実施**である。取手市部活動地域移行推進協議会は、部活動地域移行の中心的な存在として、取手市スポーツ協会、取手市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、取手市中体連、市P連、学識経験者、文化芸術関係団体の代表者に委員を委嘱し、教育委員会も加わって7月、10月、2月の3回開催した。

モデル事業については、令和6年度は、5つの中学校から11の部活動が、7つの地域クラブ活動となって、休日の活動を行った。令和7年度は、吹奏楽も含めた8種目で12の地域クラブ活動を設立し、モデル事業を拡大していく予定である。

部活動地域移行推進協議会やモデル事業を通して課題を精査し、令和8年4月からの部活動の地域移行に向けて取り組んでいる。

【令和6年度 取手市の児童生徒数】

○小学校14校、中学校6校

・小学1年生	588名
・小学2年生	641名
・小学3年生	608名
・小学4年生	650名
・小学5年生	668名
・小学6年生	692名
・中学1年生	636名
・中学2年生	687名
・中学3年生	721名

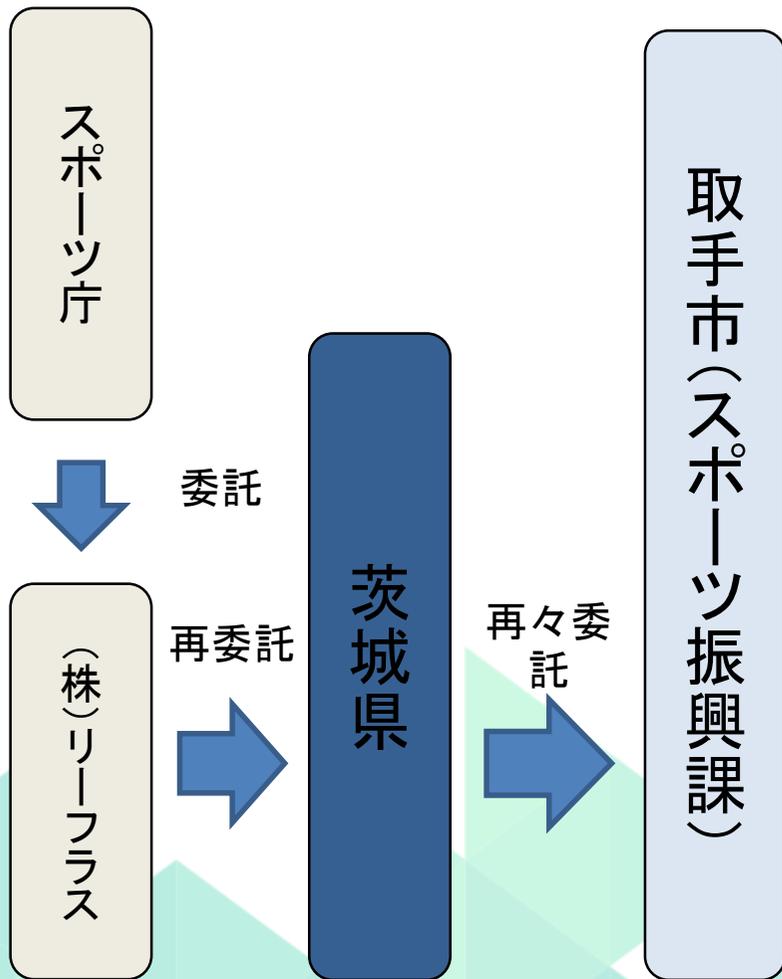
取手市においても、児童生徒数の減少は明らかであり、今後部活動を維持していくのは困難と思われる。

子供たちのために、将来にわたって持続可能なスポーツ・文化活動の環境を整えるためにも、今こそ部活動改革、部活動地域移行に取り組むべきと考える。

(出展：令和6年度取手市教育委員会資料)

2.実証内容と成果

●取手市の運営体制図



運営団体: **取手市部活動地域移行推進協議会**
(予定)

- **取手市部活動地域移行推進協議会**
 - ・理事長、副理事長、理事
 - ・事務局
- 運営団体の主な役割

<ul style="list-style-type: none"> ・総会、理事会の運営 ・指導者への謝礼支払 ・会費の徴収 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携 ・指導者と学校との調整 ・事務局運営
--	--

実施主体: **取手市中学生スポーツ・文化クラブ**
(予定)

- **取手市中学生スポーツ・文化クラブ**
 - ・正会員(中学生、指導員、保護者)
 - ・準会員(小学生、高校生)
 - ・賛助会員(指導、見守り、移動の各ボランティア)
- 実施主体の主な役割

<ul style="list-style-type: none"> ・活動場所、日程等の調整 ・休日の活動、大会等への参加 ・指導者と保護者の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携
---	---

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

3 ページ参照

●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

スポーツ振興課

- ・部活動地域移行の主幹
- ・学校、関係部署、各関係団体との連絡調整
- ・取手市部活動地域移行推進協議会の開催
- ・モデル事業の実施
- ・広報活動

◎首長部局

財政課

- ・予算措置、ふるさと納税型クラウドファンディングの検討

魅力発信課

- ・HP、Instagramによる情報発信

年間の事業スケジュール

【令和6年度】

- 4月 地域クラブ活動の指導者対象に、事業方針説明会
指導者研修会を実施
全小中学校の保護者・教職員に対し、部活動地域
移行通信を配付
モデル事業開始
- 5月 モデル事業実施の部活動保護者会において、保護
者に対して事業内容について説明
- 7月 第1回取手市部活動地域移行推進協議会開催
- 8月 市内全教職員の一斉研修会において、取手市の部
活動地域移行向について説明
- 9月 アンケート調査の実施（全中学校生徒・教員・保護
者対象）
- 10月 第2回取手市部活動地域移行推進協議会開催
- 12月 全中学校を訪問し、校長・教頭と次年度に向けて
のヒアリング、意見交換を実施
- 2月 全中学校新入生説明会において、保護者に対して、
事業内容を説明
全小中学校の保護者・教職員に対し、部活動地域
移行通信を配付
第3回取手市部活動地域移行推進協議会開催
モデル事業参加の生徒、保護者、指導者に対して
アンケート調査の実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6校	実施した地域クラブ総数	7クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		7クラブ（11部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	11人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
取手ブレイブベースボールクラブ	スポーツ振興課	軟式野球	月4～5回 週1回	1日4時間 最大8時間	1年8名 2年8名 3年12名	令和6年4月1日～令和7年3月31日	取手一中 藤代中 藤代南中	3人	3人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ
永山軟式野球クラブ	スポーツ振興課	軟式野球	月4～5回 週1回	1日4時間 最大8時間	1年14名 2年5名 3年20名	令和6年4月1日～令和7年3月31日	永山中	1人	1人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ
藤代南バレーボールクラブ	スポーツ振興課	バレーボール (女子)	月4～5回 週1回	1日4時間 最大8時間	1年10名 2年2名 3年4名	令和6年4月1日～令和7年3月31日	藤代南中	1人	1人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
取手二中剣道クラブ	スポーツ振興課	剣道	月 4～5 回 週 1 回	1日4時間 最大8時間	1年5名 2年2名 3年5名	令和6年 4月1日 ～令和7 年3月3 1日	取手二中	1人	1人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ
藤代剣道クラブ	スポーツ振興課	剣道	月 4～5 回 週 1 回	1日4時間 最大8時間	1年7名 2年3名 3年9名	令和6年 4月1日 ～令和7 年3月3 1日	藤代中 藤代南中	2人	2人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ
取手市柔道クラブ	スポーツ振興課	柔道	月 4～5 回 週 1 回	1日4時間 最大8時間	1年14名 2年8名 3年8名	令和6年 4月1日 ～令和7 年3月3 1日	取手一中 藤代中	2人	2人 (指導者と兼務)	なし	中体連：学校ごと その他：学校ごと

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
取手二中空手道クラブ	スポーツ振興課	空手道	月 4～5 回 週 1 回	1日4時間 最大8時間	1年4名 2年7名 3年6名	令和6年 4月1日 ～令和7 年3月3 1日	取手二中	1人	人 (指導者と兼務)	なし	中体連：なし その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

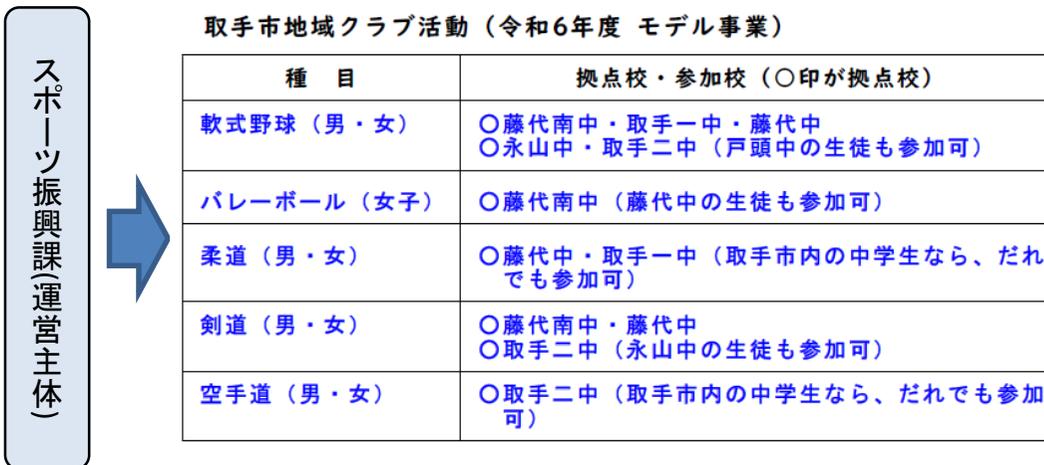
○令和6年11月23日(土)・24日(日)、F U Y O Uアリーナ藤代・野球場において、取手ブレイブベースボールクラブと永山軟式野球クラブが中心になって、駿台台学園中学校軟式野球部、印西市選抜チーム、オール県南選抜チームを招いて招待試合を行った。

主な取組例

●取手市地域クラブ活動 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球、バレーボール(女子)、柔道 剣道、空手道
運営団体名	取手市教育委員会スポーツ振興課
期間と日数	軟式野球、バレーボール、剣道、空手道 4月1日～3月31日 週1回、月4～5回程度 柔道 9月1日～3月31日 週1回、月4～5回程度
指導者の主な属性	教職員による兼職兼業
活動場所	各中学校等
主な移動手段	自転車、保護者の送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●スポーツ振興課

役割：地域クラブ活動運営全般を担当

指導者の任命、出勤管理、謝金の支払い、スポーツ安全保険の加入、消耗品の購入等。

●地域クラブ活動指導者 11名

役割：担当する各クラブの運営を担当

活動計画の作成・実施、生徒・保護者への連絡、大会への参加等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 取手市教育委員会スポーツ振興課内にコーディネーターを1名緒配置し、関係部署・各中学校・関係団体との連絡調整を行った。
- 取手市部活動地域移行推進協議会を通して、各団体代表者の意見を聞きながら、運営団体・実施主体設立の準備を進めた。
- モデル事業を通して、地域クラブ活動の運営上の課題の洗い出しを行った。

取組の成果

地域クラブ活動のモデル事業に参加した生徒を対象としたアンケート調査の結果では、回答者の67%が「地域クラブ活動に参加してよかった。どちらかといえばよかった。」と回答している。

同様に、その生徒の保護者を対象にしたアンケート調査でも、100%の保護者が、「参加させてよかった。」「どちらかといえばよかった。」と答えており、取手市の取組としては、一定の成果を上げることができた。

地域クラブ活動に参加している生徒へのアンケートの結果から

○質問 「地域クラブ活動に参加してよかったですか。」

- | | |
|-----------------|-----|
| ①よかった | 50% |
| ②どちらかといえばよかった | 17% |
| ③どちらかといえばよくなかった | 17% |
| ④よくなかった | 16% |
| ⑤わからない | 0% |
- ①と②の生徒が67%

○「よかった」「どちらかといえばよかった」理由はなんですか。

- ・専門的な指導が受けられたから。
- ・友達関係が、他の学校にも広がったから。
- ・先輩がやさしくて、楽しいのでよかった。

出展：取手市部活動地域移行推進協議会資料から

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・取手市部活動地域移行推進協議会の企画運営
- ・各中学校との連絡調整
- ・「取手市部活動地域移行通信」の発行
- ・アンケート調査の原案作成、実施、集計
- ・各中学校長、モデル事業参加者・指導者へのヒアリングの実施

今後の課題と対応方針

令和7年度は、コーディネーターを2名にし、事務局として事業を進めていく予定である。

運営団体としては、現在ある取手市部活動地域移行推進協議会が、地域クラブ活動全体の運営を担当し、実施主体としては、取手市中学生スポーツ・文化クラブを令和7年度中に設立し、令和8年度から稼働していく予定である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

今年度の地域クラブ活動の指導者については、地域人材からは指導者が見つからず、すべて兼職兼業で中学校の先生にお願いした。

今後は教職員の働き方改革の視点からも、地域の方々にも指導者になってもらえるよう、地域のスポーツ団体等とも連携していきたい。

人材バンクの人数

0名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	0名
30代	0名
40代	0名
50代	0名
60代以上	0名

登録者属性

※今年度は実績なし。

種目

資格有無

取組の成果

中学生を対象としたアンケート調査の結果では、「自分の所属する学校以外の指導者や生徒との人間関係が心配」という生徒が、22.4%いた。保護者のアンケート調査でも、生徒と同様に指導者との人間関係を心配している保護者が11.2%いた。

兼職兼業で現在の部活動顧問が指導に加わることで、生徒や保護者の不安を取り除くことができた。反面、教職員の働き方改革という点では課題が残ったので、地域の人材を活用していくようにしていきたい。

☆質問「部活動地域移行を、進めない方がいいと思う理由はなんですか。」

(生徒の回答から)

・やりたいと思う地域クラブ活動がないから	10.6%	(- 5.4%)
・参加費など、お金がかかりそうだから	22.2%	(+ 5.2%)
・移動や送迎などに時間がかかりそうだから	26.7%	(+ 3.7%)
・自分の学校以外の指導者や生徒との人間関係が心配だから	22.4%	(+ 0.4%)
・私立中学校や民間クラブと差がついてしまうから	13.9%	(- 0.1%)
・その他	4.2%	(- 3.8%)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

○「取手市部活動地域移行 地域クラブ活動指導者研修会」
内容

- ・取手市地域クラブ活動指導員任命書交付
- ・取手市の中学校部活動地域移行について
- ・指導者としての心構えについて
- ・令和6年度の事業計画について
- ・兼職兼業の手続きについて
- ・指導者登録、計画表・出勤表等の提出について
- ・質疑応答

指導者研修の参加実績

- ・開催日：令和6年4月5日（金）
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：指導者 13名
取手市教育委員会 5名

受講者の声

- ・取手市の部活動地域移行の取組について、よくわかった。
- ・子供たちのためにがんばりたい。
- ・部員の数も減っているので、これを機会に部員が増えて盛り上がりたらいいと思います。
- ・他の学校の生徒ですが、入りたいと言っている生徒がいるのでありがたいです。
- ・手続きが難しそうですが、遅れないようにがんばります。

今後の課題と対応方針

- ・令和6年度は、先生方の負担を考え、年度はじめに1回しか研修会を開催しなかった。指導者の方々の反省や意見を聞くために、年度末にアンケート調査をお願いしているが、研修会という形で直接話を聞く場があっても良かったと思う。
- ・今後は、指導者のレベルアップを目標に、年度3回くらいの研修会を行いたい。内容も、講師を招いての研修会や、指導員の先生方の意見を直接聞いたり、指導者同士の横のつながりを作るような研修会を行っていきたい。

2.実証内容と成果

- ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 5月、モデル事業に参加してくれる部活動の保護者に参加し、取手市の部活動地域移行について説明した。
- 市中学校長会や市PTA連合会の研修会において、本市の取組について説明した。
- 8月、市の教職員の一斉研修会において、本市の取組と今後の予定について説明した。

取組の成果

- これ以外にも、「取手市部活動地域移行通信」を作成し、メールを使って市内の全小中学校の保護者、教職員に3回配付した。
- 市のHPにも、「部活動地域移行」のページを作成し、モデル事業の地域クラブの活動の様子を掲載した。こういった取組を通して、市全体の興味関心を高めることができた。

中学生の皆さんへ 小中学校保護者の皆さんへ 教職員の皆さんへ 令和6年8月

取手市の中学校部活動地域移行について

取手市では、未来を担う子どもたちのスポーツや文化活動環境を整えるため、国や茨城県のガイドラインにしたがって、令和5年度から中学校部活動の地域移行を進めています。具体的には、拠点校方式で地域クラブ活動のモデル事業を行い、休日（土曜日・日曜日・祝日）に活動を行なうから、良い高学業を確立し、令和8年度の完全実施に向けてより良い地域クラブ活動を作っていく方針です。

拠点校方式とは、自分の中学校に希望する部活動がない、部員数がそろっていないなどの場合、拠点校を中心とした複数の中学校での活動に参加できるというものです。

☆取手市の中学校部活動地域移行（地域クラブ活動）

- 目的** 地域クラブ活動を通して、
・各小中学校の生徒が参加することで、参加者全員が楽しく、のびのびと活動できる内容にします。
・取手市の生徒がスポーツ・文化活動の発展につなげます。
- 活動内容** → キーワード「楽しく」「うまく」
「楽しく」→ 複数の中学校の生徒が参加するので、参加者全員が楽しく、のびのびと活動できる内容にします。
「うまく」→ 子どもの生涯活動につながるよう、技能の向上を支援できる活動をします。
- 活動日及び活動時間**
取手市立中学校に係わる部活動の活動方針に準じて、
・活動日は、休日（土曜日・日曜日・祝日）とします。活動場所は、市内の中学校等になります。
・活動時間は、通常一日あたり4時間（生徒の移動や準備等の時間を含めて）です。ただし、大会や練習試合などの場合は、一日あたり8時間を超過します。
・一日の活動時間を超過して活動した場合には、他の日に休業日を振り替えます。
- モデル事業**
令和6年度は、モデル事業として以下の中学校の部活動が、地域クラブ活動として休日（土曜日・日曜日・祝日）の活動を行います。
軟式野球（男・女）→ ○取手一中・藤代中・藤代南中
○永山中（戸塚中の生徒も参加できます）
バスケットボール（女子）→ ○永山中・戸塚中 ※新人戦から
バレーボール（女子）→ ○藤代南中（藤代中の生徒も参加できます）
剣道（男・女）→ ○藤代中・藤代南中
○取手二中（永山中の生徒も参加できます）
柔道（男・女）→ ○藤代中・取手一中（取手市内の中学生ならだれでも参加できます）
空手道（男・女）→ ○取手二中（取手市内の中学生ならだれでも参加できます）

- (7) 令和8年度からは、中学校の部活動は平日のみの活動となり、休日の活動はすべて、地域クラブとしての活動になります。
- (8) 令和7年度までは、移行期間のためにお金はかかりません。令和8年度からは、地域クラブ活動に参加する場合には、参加費やスポーツ安全保険料等がかかります。



○取手二中剣道クラブの皆さんです。永山中の生徒も参加しています。市郡大会、県南大会と勝ち進み、男子団体戦では県大会にも出場しました。



○藤代南バレーボールクラブの皆さんです。藤代南中を拠点校として、藤代中の生徒も参加しています。地域クラブとして、中体連の大会にも参加しました。

☆茨城県広報紙「Oびり」8月号にも、部活動地域移行に関する記事が載っています。ぜひご覧ください。

【問い合わせ先】 取手市教育委員会スポーツ振興課 電話 0297-(82)7200
火曜日～金曜日、8:30～17:00

バス等の運行実績

- ・日数 日
- ・利用者数 人
- ・運行経路

※今年度は実績なし。

バス等の運航経費・収入

- ・人件費
- ・利用料

※今年度は実績なし。

今後の課題と対応方針

- 市スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域クラブは代表者が推進協議会に参加しているが、それ以外の各競技団体や地域のスポーツクラブとも連携していく必要がある。
- 取手市にもコミュニティバスがあるが、活用はなかった。今後、生徒の移動手段として活用できないか、関係部署とも検討していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
工：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 工：面的・広域的な取組

取組事項

○シンポジウムや県の研修会等の機会を捉えて、近隣市町村の部活動地域移行の担当者と情報交換を行った。

各自治体の役割

○今年度、他市町村と連携した取組みはなかった。

移動手段

○今年度、他市町村と連携した取組みはなかった。

事務局運営の方法

○今年度、他市町村と連携した取組みはなかった。

取組の成果

○運営団体・実施主体の設立や地域クラブ活動の収入と支出、会費の徴収や指導者への報酬の支払い等、細かな点まで情報交換ができ、事業を進める上で、多いに参考になった。

今後の課題と対応方針

○今後、市町村や県をまたいでの生徒の参加や、その受け入れ等の課題が予想される。さらに、他市町村の担当者との連携を図る必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

取手市では、令和5年度から部活動地域移行のモデル事業を行っている。令和6年度は、5つの中学校から11の部活動が、7つの地域クラブ活動として休日の活動を行った。

他校の生徒が、進んで平日の活動にも参加したり、1つのチームとして大会に参加して、県大会や関東大会、全国大会に出場したクラブがあるなど、全体として充実した活動ができた。

活動の詳細

令和6年度 部活動地域移行モデル事業の進捗状況について①

クラブ	クラブ員数	指導者	実施回数	備考
取手BRAVEベースボールクラブ	27人	3名 兼職兼業	44回	総体で県選抜大会出場 新人大会県南大会出場
永山軟式野球クラブ	20人	1名 兼職兼業	47回	総体で県選抜大会出場
藤代剣道クラブ	17人	2名 兼職兼業	32回	総体で県南大会出場
取手二中剣道クラブ	11人	1名 兼職兼業	46回	総体で県大会出場 新人大会県南大会出場
藤代南バレーボールクラブ	16人	1名 兼職兼業	41回	市郡総体、市郡新人大会に出場
取手二中空手道クラブ	15人	1名 兼職兼業	44回	関東大会、全国大会出場 全国選抜大会出場予定(3月)
取手市柔道クラブ	18人	2名 兼職兼業	14回	10月から開始 新人大会県南大会出場
合計	124人 (1クラブ平均 17.7人)	11名	268回 (1クラブ月平均 4.7回)	

※実施回数は、4月から12月までの実績(柔道クラブは10月から12月)

出展：令和6年度 第3回取手市部活動地域移行推進協議会資料から

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

生徒だけでなく、地域クラブ活動のモデル事業に参加した生徒の保護者を対象にしたアンケート調査でも、100%の保護者が、「参加させてよかった。」「どちらかといえばよかった。」と答えている。

保護者の目から見ても、モデル事業として充実した活動ができていると考えられる。

○地域クラブ活動に参加させている保護者へのアンケート調査の結果から

☆質問 「地域クラブ活動に参加させてよかったですか。」

①よかった	50%	➡ ①、②の保護者が100%
②どちらかといえばよかった	50%	
③どちらかといえばよくなかった	0%	
④よくなかった	0%	
⑤わからない	0%	

☆「よかった」「どちらかといえばよかった」理由はなんですか。

- ・子供が専門的な指導を受けられるから。
- ・子供が希望する活動を続けられるから。
- ・子供の友達関係が、学校外にも広がるから。 ※これは全員から回答がありました。
- ・先生たちの働き方改革になる。

☆（自由記述から）

- 他の中学校の方との活動が少々不安でしたが、優しい先輩方とのことで、楽しく活動しています。ありがとうございます。
- 人数が増えて、練習にも活気が出て、試合でも勝てるようになって、子供は喜んでいます。
- はじめは不安でしたが、先生たちにもお世話になり、うまくいっているようで安心しました。

出展：モデル事業に参加している生徒の保護者へのアンケート調査から

今後の課題と対応方針

○取手市では、「改革実行期間」の前期の取組として、現在市内各中

学校にある部活動の休日の活動を地域に移行することを目標にし

ている。しかし、生徒の選択肢を増やすということから、現在取手市

内の中学校の部活動にはない、陸上競技や男子バレーボールといった種目の地域クラブ活動についても検討していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブ活動を運営にあたっては、持続可能な仕組み作っていく必要がある。実証事業を通して支出シミュレーションや歳出と歳入の状況について試算を行った。

出展：取手市部活動地域移行推進協議会資料から

地域クラブに係る経費

資料

取手市部活動地域移行事業 支出シミュレーション

単位：千円

	人件費	謝礼	消耗品	使用料	保険料	合計	実施クラブ数
令和5年度	999	678	200	125	29	2,002	2クラブ実施 週2日勤務(コーディネーター1人)
令和6年度	3,890	3,425	300	125	143	7,740	7クラブ実施 週4日勤務(コーディネーター1人)
令和7年度	4,273	10,106	750	227	356	15,712	12クラブ(予定) 週3日勤務(コーディネーター2人)
令和8年度	4,273	13,148	1,050	486	0	18,957	21クラブ(予定) 週3日勤務(コーディネーター2人)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

収支バランス

資料

取手市「地域クラブ活動」歳出と歳入の状況について

単位：円

	歳出(総事業費)	歳入内訳		クラブ数(予定)
		県委託料	市補助	
令和5年度	2,142,000	1,496,150	646,000	2クラブ実施
令和6年度	7,953,000	4,071,000	3,882,000	7クラブ実施
令和7年度	15,712,000(推定)	7,011,000(推定)	8,701,000(推定)	15クラブ予定
令和8年度	23,230,000(推定)	未定	未定	21クラブ予定

出展：取手市部活動地域移行推進協議会資料から

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

取組の成果

- モデル事業を通して、地域クラブ活動を運営していくための試算を行った。試算を行ったことで、参加者の会費の徴収と指導者への報酬の支払いのバランスについても見通しを立てることができた。
- 会費については、年会費と月会費を徴収する方向で進んでいる。年会費は主に事務局の運営費にあて、月会費は主に指導員への報酬にあてる予定である。
- 受益者負担額の設定については、高額になることが予想されることから、継続的な行政の支援が必要である。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

	会員数	月会費
令和5年度	2クラブ 27人	月6,600/人
令和6年度	7クラブ 106人	月6,250/人
令和7年度	15クラブ 300人	月4,400/人
令和8年度	21クラブ 420人	月3,800/人

※ 令和7年度と令和8年度の会員数に関しては、1クラブ20人で試算した

出展：取手市部活動地域移行推進協議会資料から

今後の課題と対応方針

- 地域クラブ活動は、全員参加ではなく自由参加であることから受益者負担はやむを得ない。しかし、受益者負担だけではクラブの運営は非常に厳しいものがある。学習指導要領においても「教育的意義を有する活動」と記載されることが予想されることから、国の事業として支援体制を整備し、保護者の負担をできるだけ少なくしたい。
- 実際に活動が始まれば、会費以外にも、ボールなどの消耗品の購入費を参加者が負担することになる。金銭的な理由で参加できないという生徒が出ないように、行政の支援だけでなく、ふるさと納税型クラウドファンディングや企業の協賛等、様々な形で中学生の地域クラブ活動を支援していく体制を作りたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 生徒の移動の負担と安全を考慮し、大会を除いて活動はすべて拠点校を中心にした中学校で行った。
- 参加生徒の経済的な負担を減らすために、中学校と共通理解を図った上で、学校の施設や備品を使用させてもらった。

取組の成果

- 取手市内を東西の二つに分けて拠点校を設定した。自転車移動できる距離なので、事故も無く、安全に移動することができている。他校から、拠点校の平日の活動に参加する生徒もいた。
- 中学校の理解もあり、施設や備品の使用については、平日の部活動で使用している物を共用で使用させることができた。

・部活動の種類が増えてほしい。 ・休日の活動時間を増やしてほしい。
・活動した後の専門的指導を受けて、さらに個人一人一人が成長することができる環境ができることが期待。
・安全に活動できるようにそれぞれの部の設備を整える。
・友達との関わりを地域全体で広げて、学びを増やして行って欲しいです。
・中学校部活動の地域移行で、いろいろな人とかわりながら仲良くなれることができるようになってほしいです。
・地域移行することによって、顧問、副顧問だけでなく、専門知識のある人が加わることによって、専門的な技術が身に付く。

・生徒に負担がかからないようにしてほしい。 ・参加できる部活動の輪が広がること。 5
・色々な人と色々な活動ができるから、将来にも繋がると思う。
・格差が生まれることはしないでほしい。指導者も、公平に生徒をみてほしい。
・参加費などのお金を県や国から援助してもいいとおもう。
・吹奏楽部は取手交響吹奏楽団と練習したいです。

出展：生徒対象のアンケート調査から

今後の課題と対応方針

- 学校施設や備品の使用については、地域クラブ活動で使用するものと、学校の授業や行事で使用するもの、部活動で使用するものについて、学校や関係部署と協議した上で細かいルールを作成し、お互いに気持ちよく使えるようにする必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：**その他の取組**



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行 文化部の地域移行

取組事項

○平日の部活動地域移行や文化部に地域移行についても、部活動地域移行推進協議会において検討した。

取組の成果

- 平日の移行については、「改革実行期間」の前期において休日の部活動を地域に移行し、その中で平日の移行についても検討し、中間評価の時点で判断していくことになった。
- 文化部の地域移行については、吹奏楽部については運動部と同様に地域移行を行う。
その他の文化部については、休日の活動実績がないことから地域移行は行わず、個人で市や公民館等の講座や行事に参加してもらうことになった。

指導者の属性や配置の工夫

・今年度は実績なし。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

・今年度は実績なし。

今後の課題と対応方針

- 平日の移行については、指導者の確保の問題があり、吹奏楽部の移行については、楽器の使用や運搬といった課題がある。こういった課題を踏まえながらも、子供たちにできるだけいい環境が作れるように対応していきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

取手市では、令和5年度から中学校部活動の地域移行に取り組んでいる。「取手市部活動地域移行推進協議会」を設置し、取手市スポーツ協会、取手市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、取手市中体連、市PTA連合会、学識経験者、文化芸術関係団体の代表者に委員を委嘱し、教育委員会も加わって年に3回開催してきた。協議会を通して幅広く意見をいただき、事業推進に生かすようにしている。

また、実際に地域クラブ活動を運営していくための実証事業として、モデル事業を行っている。令和5年度は軟式野球と剣道の2つであったが、令和6年度は軟式野球2つ、剣道2つ、女子バレーボール、柔道、空手道の7つに増えた。さらに令和7年度は吹奏楽2つ、男子バスケットボール、女子バスケットボール、剣道の5つが加わって、12のクラブが「地域クラブ活動」として休日の活動を行う予定である。モデル事業を通して地域クラブ活動運営上の課題を精査し、令和8年4月からの全部活動の地域移行に向けて取り組んでいる。

これまでのところは、学校、地域クラブ活動指導者の先生方、参加生徒とその保護者等、関係者の理解と協力により、順調に進んでいる。

●成果の評価

- ・地域移行を進めるにあたっては、運営団体・実施主体の設立、指導者の選出・任命、受益者負担等の大きな課題があったが、2年間の取組を通して、具体的な見通しを立てることができた。
- ・モデル事業を行った7つのクラブについては、アンケート調査の結果からも、いい活動ができていた。令和7年度は12のクラブがモデル事業を行うので、これをグッドモデルとして、情報共有をしていきたい。
- ・広報活動を通して、生徒や保護者、教職員に対しては、部活動地域移行についての理解が進んできた。さらに、地域に向けても情報発信をしていきたい。

●今後に向けて

部活動地域移行も目的は、部活動改革、すなわち

- ①子供たちのために、スポーツ・文化活動の環境を整備していくこと。
- ②教職員の働き方改革。

と考える。令和8年4月からは、市内6中学校のすべての部活動の休日の活動を地域に移行する予定である。将来を担う子供たちのためにも、市、学校、生徒、保護者、各関係団体、各関係者とも十分に連携し、市をあげての支援体制を整備することで、より良い地域クラブ活動を作っていく。

アンケート結果・参加者の声

●生徒アンケートの結果

令和6年度 取手市立中学校の部活動地域移行に向けてのアンケート調査について（生徒用）

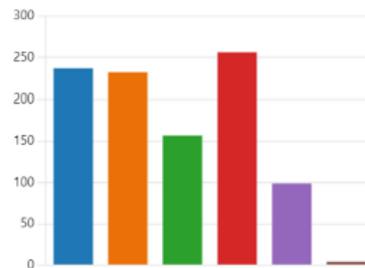
5.「中学校部活動の地域移行」について、基本的な考えをお聞かせください。

● 大に進めた方がいいと思う	40
● 進めた方がいいと思う	196
● どちらかといえば進めた方がいいと思う	339
● 進めない方がいいと思う	160
● わからない	714



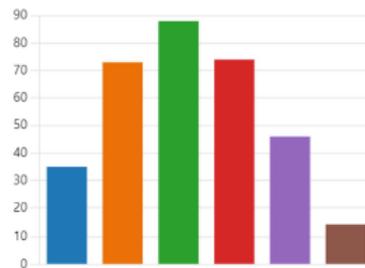
6. 進めた方がいいと思う理由は何ですか。

● 専門的な指導が受けられるから	237
● 希望する活動を続けられるから	232
● 続けることで、将来のスポーツ活動や...	157
● 友達関係が、学校外にも広がるから	256
● 先生たちの働き方改革につながるから	99
● その他	4



7. 進めない方がいいと思う理由は何ですか。

● やりたいと思う地域クラブがないから	35
● 参加費など、お金がかかりすぎるから	73
● 移動や送迎などに時間がかかりそう...	88
● 自分の学校以外の先生や生徒との...	74
● 私立中学校や民間クラブと差ができ...	46
● その他	14



●生徒の声

- ・ 部活動の種類が増えてほしい
- ・ 休日の活動時間を増やしてほしい。
- ・ 活動した後の専門的指導を受けて、さらに個人一人一人が成長することができる環境ができることが期待。
- ・ 安全に活動できるようにそれぞれの部の設備を整える。
- ・ 友達との関わりを地域全体で広げて、学びを増やして欲しいです。
- ・ 中学校部活動の地域移行で、いろいろな人とかかわりながら仲良くなれることができるようになってほしいです。
- ・ 地域移行することによって、顧問、副顧問だけでなく、専門知識のある人が加わることによって、専門的な技術が身に付く。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

令和6年度 取手市立中学校の部活動地域移行に向けてのアンケート調査について（保護者用）

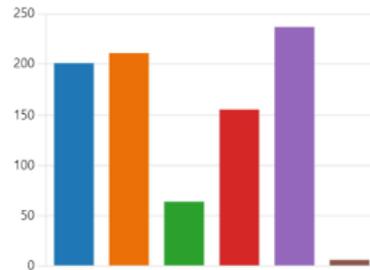
5. 「中学校部活動の地域移行」について、考えをお聞かせください。

● 大いに進めた方がよいと思う	57
● 進めた方がよいと思う	161
● どちらかといえば進めた方がよいと思う	199
● 進めない方がよいと思う	79
● わからない	229



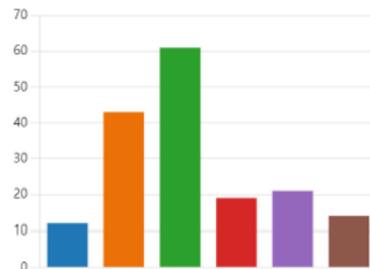
6. 進めた方がよいと思う理由は何ですか。

● 子供が専門的な指導が受けられる...	201
● 子供が希望する活動を続けられるから	211
● 子供の生涯スポーツ・文化活動につ...	64
● 子供の友達関係が、学校外にも広...	156
● 先生たちの働き方改革になるつな...	237
● その他	6



7. 進めない方がよいと思う理由は何ですか。

● 子供がやりたいと思う地域クラブがな...	12
● 受益者負担など、お金がかりそう...	43
● 移動や送迎などに時間がかかりそう...	61
● 子供が、自分の学校以外の先生や...	19
● 私立中学校や民間クラブとの格差...	21
● その他	14

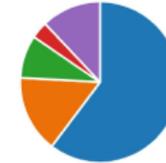


【保護者アンケートの結果】

令和6年度 取手市立中学校の部活動地域移行に向けてのアンケート調査について（教職員用）

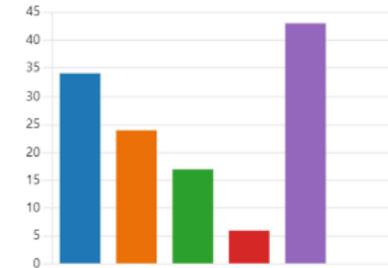
5. 「中学校部活動の地域移行」についての、基本的なお考えをお聞かせください。

● 大いに進めた方がよいと思う	35
● 進めた方がよいと思う	9
● どちらかといえば進めた方がよいと思う	5
● 進めない方がよいと思う	2
● わからない	7



6. 進めた方がよいと思う理由は何ですか。

● 生徒が専門的な指導が受けられる...	34
● 生徒が希望する活動を続けられるから	24
● 生徒の生涯スポーツ・文化活動につ...	17
● 生徒の友達関係が、学校外にも広...	6
● 先生たちの働き方改革になるから	43
● その他	0



7. 進めない方がよいと思う理由は何ですか。

● 生徒がやりたいと思う地域クラブがな...	1
● 受益者負担など、お金がかりそう...	1
● 移動や送迎などに時間がかかりそう...	0
● 生徒が、自分の学校以外の先生や...	0
● 私立中学校や民間クラブとの格差...	0
● その他	0



【指導者アンケートの結果】

アンケート結果・広報資料

休日の中学校部活動が変わります！

休日（土曜日・日曜日・祝日）の中学校の部活動は、令和7年度まで終了し、令和8年度からは部活動ではなく、すべて『地域クラブ活動』での活動になります。

部活動を地域に移行する理由、目的

★少子化による部員数の減少や、中学校教職員の業務負担の増加により、学校単位での活動が難しくなっているため。

☆中学生が、続けてスポーツや文化活動ができる環境を作るために、中学校の部活動を、『地域クラブ活動』に移行することになりました。



中学校部活動と『地域クラブ活動』のちがいは？

	中学校部活動	地域クラブ活動
運営主体	各中学校	地域クラブ
参加者	当該校の生徒	市内の生徒
指導者	中学校の教職員、地域人材（年寄指導員、外年指導員等）	地域クラブ運営指導員（教職員の業務負担を含む）
活動場所	当該校の施設	学校施設や公共施設等
活動日	平日	休日（土曜日、日曜日、祝日）

取手市の部活動地域移行

取手市では、各中学校にある部活動の良さを活かしながら、**親自治方式でモデル事業を行い、『地域クラブ活動』への移行を進めています。**

親自治方式とは、自分の中学校に所属する部活動がない、部員数がそろっていないなどの場合に、**町が指定した親自治校を中心に、指定の中学校の生徒が参加して一緒に活動をするというものです。**一つのチームとして、大会にも参加できます。



令和7年度の『地域クラブ活動』モデル事業

令和5年度から、『地域クラブ活動』のモデル事業を行っています。令和7年度は、以下の部活動が地域クラブ活動として休日の活動をを行います。

種目	親自治校・親自治校（口印が親自治校）
軟式野球（男・女）	<input type="checkbox"/> 取手一中・ <input type="checkbox"/> 鹿沼中・ <input type="checkbox"/> 鹿沼南中 <input type="checkbox"/> 水戸中・ <input type="checkbox"/> 取手二中（IP校中の生徒も参加できます）
バスケットボール（男子）	<input type="checkbox"/> 鹿沼南中・ <input type="checkbox"/> 鹿沼中
バスケットボール（女子）	<input type="checkbox"/> 鹿沼中・ <input type="checkbox"/> 鹿沼南中
バレーボール（女子）	<input type="checkbox"/> 鹿沼南中（鹿沼中の生徒も参加できます）
柔道（男・女）	<input type="checkbox"/> 鹿沼中・ <input type="checkbox"/> 取手一中（取手市岡の中학생なら、だれでも参加できます）
剣道（男・女）	<input type="checkbox"/> 鹿沼南中・ <input type="checkbox"/> 鹿沼中 <input type="checkbox"/> 取手二中（水戸中の生徒も参加できます） <input type="checkbox"/> 取手一中
空手道（男・女）	<input type="checkbox"/> 取手二中（取手市岡の中학생なら、だれでも参加できます）
吹奏楽	<input type="checkbox"/> 取手二中 <input type="checkbox"/> 鹿沼南中

【Q & A】

- Q：平日の部活動はどうなりますか？
A：平日は、今までと同じく中学校での部活動になります。
- Q：地域クラブ活動の部活動場所は？
A：基本的に無償校を中心に部活動します。ただし、複数の学校の生徒が参加しているため、生徒の部活動の負担を考慮しながら、計画的に部活動場を決定していきます。
- Q：町内のクラブチームとの違いは？
A：地域クラブ活動は、現地の各中学校の部活動を地域に移行（地域移行）するために、市が中心になって行うものです。町内のクラブチームとは違いです。
- Q：会費は？
A：令和7年度中は、地域クラブ活動に移行するためのモデル事業として実施しているため、会費などはかかりません。ただし、令和8年度からは、指導者への報酬やスポーツ安全保険料等、一定の会費（年会費、月会費）が発生します。



【問合せ先】 取手市教育委員会スポーツ振興課 0297-13217200
火曜日～金曜日、8:30～17:00

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【取手ブレイブベースボールクラブと
永山軟式野球クラブ】



【取手二中剣道クラブ】



【藤代剣道クラブ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【藤代南バレーボールクラブ】



【取手市柔道クラブ】



【取手二中空手道クラブ】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

中学校、市スポーツ協会、市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、市PTA連合会、市教育委員会スポーツ振興課

経過

令和5年度から、取手市教育委員会スポーツ振興課が中心になって、部活動地域移行について取り組みを始めた。推進協議会を設置し、中学校、市スポーツ協会、市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、文化芸術団体、市PTA連合会の代表者を委員に任命し、幅広く意見を求めながら事業を進めている。

主な取組として、モデル事業を行いながら良い点と改善点の検証を行い、より良い地域クラブ活動を目指して取り組んでいる。

実施内容

モデル事業を行うにあたっては、各中学校で対象となる部活動の選定やその顧問の先生が兼職兼業での指導ができるかなど、現場の学校長の協力が不可欠である。中学校長会だけでなく、個別に各中学校をを訪問し、モデル事業を行う部活動を決定していった。令和6年度は、5中学校の11部活動が7つの地域クラブとして、拠点校方式で休日の活動を行った。

実施にあたって生じた課題

スポーツ協会や少年団にも指導者の派遣をお願いしたが、適任者が見つからず、6年度のモデル事業の指導員は、すべて中学校の教員が兼職兼業でやることになってしまった。教職員の働き方改革の視点からも、地域人材から指導員を見つけるようにしたい。

令和8年度からは、参加費を徴収することになるが、受益者負担だけではクラブの運営は非常に厳しいものがあることがわかった。行政の支援だけでなく、ふるさと納税型クラウドファンディングや企業の協賛等、様々な形で中学生の地域クラブ活動を支援していく体制を作りたい。

今後の展開

令和7年度は、吹奏楽部も含めた12の地域クラブ活動をモデル事業として実施し、令和8年4月からは、市内6中学校のすべての部活動の休日の活動を地域に移行する予定である。子供たちのためにも、各関係団体、各関係者と十分に連携し、より良い地域クラブ活動を作りたい。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

取手市部活動地域移行・取手市中学生地域クラブ活動のロードマップ

「取手市は、子供たちのスポーツ文化環境を整えるため、部活動地域移行に取り組んでいます。」

主な事業	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
取手市部活動地域移行推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> 取手市部活動地域移行推進協議会を設置し、広く地域団体から意見を求めた（各地域団体の代表に委員を委嘱）。 7月、10月、2月の3回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域移行の受け皿となる取手市中学生スポーツ文化クラブ（TACC）の設立について協議する。 7月、10月、2月の3回開催する。 ※委員は5年度から継続。 	<ul style="list-style-type: none"> 取手市中学生スポーツ文化クラブの運営について協議する。 7月、10月、2月の3回開催する。 ※委員の改選年度、再任は可。 	<ul style="list-style-type: none"> 取手市中学生スポーツ文化クラブの運営状況について協議する。 7月、10月、2月の3回開催 ※委員は7年度から継続。
モデル事業	<ul style="list-style-type: none"> 軟式野球 <ul style="list-style-type: none"> ①（取手一中・藤代中・藤代南中） 剣道 <ul style="list-style-type: none"> ②（藤代中・藤代南中） <p>の2つが地域移行のモデル事業として休日の活動を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 以下の8つがモデル事業として、地域クラブとして休日の活動を行う。 軟式野球 <ul style="list-style-type: none"> ①（取手一中・藤代中・藤代南中） ②（水山中・戸頭中） バスケットボール（女子） <ul style="list-style-type: none"> ③（水山中・戸頭中） バレーボール（女子） <ul style="list-style-type: none"> ④（藤代南中・藤代中） 剣道 <ul style="list-style-type: none"> ⑤（取手二中・水山中） ⑥（藤代中・藤代南中） 柔道 <ul style="list-style-type: none"> ⑦（取手一中・藤代中） 空手道 <ul style="list-style-type: none"> ⑧（取手二中） 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度のモデル事業に加え、市立6中学校の半数程度の部活動が、地域クラブとして休日の活動を行う。 ※モデル事業以外の部活動は、休日も部活動として活動する。 ※モデル事業は7年度まで。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下の11の種目において、地域クラブ（TACC）として休日の活動をする。 ①軟式野球 ②サッカー ③バスケットボール（男女） ④バレーボール（女子） ⑤バドミントン（男女） ⑥ソフトテニス（男女） ⑦卓球（男女） ⑧剣道（男女） ⑨柔道（男女） ⑩空手道（男女） ⑪吹奏楽
広報活動・アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 取手市のHPに「部活動地域移行」のページを作成、発信。 9月、全中学校の生徒、保護者、教職員を対象にアンケート調査を実施。 1月、モデル事業の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施。 新入生説明会において、保護者を対象に説明会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 取手市のHPに「部活動地域移行」のページを作成、発信する。 9月、全中学校の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 1月、モデル事業の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 新入生説明会において、保護者を対象に説明会を実施する。 取手市立中学校の教職員を対象に、説明会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 取手市HPの「部活動地域移行」のページに各クラブの活動を紹介する。 9月、全中学校の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 1月、モデル事業の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 新入生説明会において、保護者を対象に説明会を実施する。 取手市立中学校の教職員を対象に、説明会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 取手市HPの「部活動地域移行」のページに各クラブの活動を紹介する。 9月、全中学校の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 1月、TACCに参加の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 新入生説明会において、保護者を対象にTACCに関する説明会を実施する。 取手市立中学校の教職員を対象に、説明会を実施する。
運営団体・実施主体（TACC）	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は、取手市教育委員会スポーツ振興課が中心になって準備・運営をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度も、取手市教育委員会スポーツ振興課が中心になって運営する。 令和8年度から運営団体・実施主体となる取手市中学生スポーツ文化クラブ（TACC）の設立準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興課と取手市中学生スポーツ文化クラブ（TACC）が協同で、試験的な運営を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> 取手市中学生スポーツ文化クラブ（TACC）による運営開始。 スポーツ振興課は運営をサポートする。

出展：取手市部活動地域移行推進協議会資料から